



自己PRは、「探すもの」じゃなくて、「創るもの」

7月1日に求人票が公開されて、いよいよ今年も就職活動がスタートしました。3年生にとっては、緊張感を持って求人票に記載された情報を吟味し、興味をもった求人票を何枚もコピーして、家庭に持ち帰って検討していることと思います。一方、1・2年生にとっては、来年・再来年のことということで、まだ現実味を帯びていないかな。

入社試験にせよ、入学試験にせよ、人柄や意欲、志望動機を見るために、必ず面接試験が実施されます。その中で、「あなたの自己PRをしてください」といった質問が必ずといっていいほど聞かれます。皆さんは、その質問にどのように答えますか。「PRできるものなんて、いくら探しても自分には見つからない」と困ってしまう人もいるかもしれませんね。でも、それはあなただけではなく、誰にだっていえることです。

自己PRは、「探すもの」じゃなくて、「自分で創るもの」です。もし結果を出している人が「才能」を持っているのだとすれば、それは「継続して努力できる」「才能」だと思います。アメリカのメジャーリーグで活躍したイチロー選手は、大きなことを成し遂げる人というのは、大きなことを1つやったのではなく、『誰にでもできることを、誰にもできないくらい続けてきた人』だと話しています。発明家のエジソンも電球を発明するまでに、1万回の失敗を重ね、それを失敗とは思わずに「上手くいかない方法がわかった」として実験を続けたそうです。1回や2回チャレンジすることは誰でもできます。でも失敗しても何百回、何千回と行うことは、誰にでもできることではありません。結果につながったのは、そのご褒美を神様がくれたのかもしれませんがね。

皆さんがこれまで努力してきたことは何でしょう。結果が出たか出ないかということよりも、努力し続けたことが自分を成長させてくれます。PRできることが思い浮かばない人は、今から何か努力をスタートしましょう。入社試験も入学試験も、皆さんにとってこれまでの人生の中で大きな関門だと思いますが、それは同時に自分を成長させる一つのきっかけです。この瞬間がこれからの人生のスタート地点だと思って、自己PRできることを自分のために創っていきましょう。

商品開発に関する外部講師講話

3年生の流通ビジネスコースの「商品開発」の授業の中で、商品開発に関する外部講師講話が実施されました。7月10日(水)には、JAふくしま未来の方から「伊達市の農産物」「伊達市の6次化商品」、12日(金)に保原町商工会女性部の方から「豆っこ汁の商品開発」のお話を伺うとともに、質疑応答が行われました。また、JAふくしま未来の6次化商品である「桃の恵み」を試飲させていただくなど、教科書で学習する内容とはひと味違った、地域製品を使って実際に商品開発をするうえでの苦労や、仲間で協力しながらこれまでにないものを創り出していく楽しさを学ぶことができました。



保原商工会婦人部の方の講義を熱心に聞く生徒

この後の授業では、生徒一人ひとりが「商品企画書」を作成し、オリジナル商品を完成・発売することを目指していきますが、どちらの講義も大いに参考となる内容でした。

生徒の感想

今回、保原町商工会女性部の方の話を聞いて、商品開発をするときには「商品を作りたい!という強い思い」「仲間の賛同と協力」「楽しい雰囲気作り」が大切なのだと分かりました。今回の話を聞いて、久しぶりに豆っこ汁が食べたくくなりました。



商業科カレンダー

- 14日(日) ビジネスコミュニケーション検定試験
- 19日(金) 1学期終業式
- 26日(金) 中学生1日体験入学



- 22日(木) 情報処理検定試験1か月前
- 24日(土) 東北生徒商研大会視察(1-5 予定)
- 26日(月) 2学期始業式



須永 博士

『たった一冊の詩集』より